泗水図書館 ☎ 0968 (38) 6866
 中央公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1672
 七城公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1580
 旭志公民館図書室 ☎ 0968 (37) 3111
 内線 303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
 七城公民館図書室 日曜日・祝日
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>

司書のつづやき

菊池溪谷で涼んだ後は、図書館(室)まで足をのばしてみませんか? ごぼう

新着・お薦め図書

泗水図書館

異国合戦 蒙古襲来異聞
 女のいない男たち
 蔑の渚 - 石牟礼道子自伝 -
 本屋さんのダイアナ
 辞書になった男
 夫婦の段捨離
 『赤毛のアン』と花子
 ハリエットの道

岩井三四二 著
 村上春樹 著
 石牟礼道子 著
 袖木麻子 著
 佐々木健一 著
 やましたひでこ 著
 村岡恵理 文
 カディール・ネルソン 絵

中央公民館図書室

くらしのリメイク小物
 浜内千波の1分こねパン
 耳鳴り・難聴を治す本
 名探偵の証明
 ようこそ授賞式のタベに
 なんちゃってヒーロー
 ポコポコドーナツ

寺西恵里子 著
 浜内千波 著
 石井正則 監修
 市川哲也 著
 大崎 梢 著
 みうらかれん 作
 さかいさちえ 作

七城公民館図書室

鳶屋
 人生相談。
 モンモンくまモン絵本
 イカになあれ

谷津矢車 著
 真梨幸子 著
 トモコ=ガルシア 作・絵
 真珠まりこ 作

旭志公民館図書室

満願
 嫌われる勇氣
 コロボックル絵物語
 ノラネコぐんだんきしゃぼっぱ

米澤穂信 著
 岸見一郎 著
 有川 浩 作
 工藤ノリコ 著

第4回ブックレター小学生低学年の部 金賞

旭志小2年 田中 麗さん

金賞を取ることができてうれしかったです。これからもますます本を読みたいと思いました。

「メガネをかけたら」 くすのきしげのり 作

このはなしのおんなのこは、はじめてめがねをかけて、がっこうへいくと、おともだちがあつまってきます。わたしがかみのけをみじかくきったとき、みんながどんなふうにはなしかけてくるかドキドキしながらあさでかけたことをおもいだしました。わたしは、おとうさんやおかあさん、そしてがっこうのせんせい、みんなからまもられているのだとわかりました。はずかしいけど、べんきょうでわからないところがあたりこまったことがあったらすけてといいたいです。

※旭志公民館図書室では、毎年読書感想画とブックレター(感想文)のコンクールを開催しています。

耳より情報

第5回読書感想画・ブックレターコンクール作品募集!

旭志公民館図書室では、今年も読書感想画・ブックレターコンクールの作品を募集します。入賞者は菊池市旭志文化祭で表彰します。詳しくは旭志公民館図書室までお問い合わせください。皆さんからの応募をお待ちしています。

募集期間 7月22日(火)~9月30日(火)

対象 保育園・幼稚園児、小・中学生

応募規定

- ①感想画……画用紙、大きさ自由
- ②ブックレター(感想文)……原稿用紙1枚程度

問い合わせ・申込先 旭志公民館図書室

読書感想画は旭志公民館に展示します♪

万句の里俳句会 5月例会

花嫁と白芍薬を重ねけり

宮本 敏子

木洩日の風のささやき夏に入る

小山 照子

雨晴れて杜のうぐいすひととききり

田中 美智

筍の朝採り二本置かれあり

丸山美代子

成就せし絵馬カラカラと若葉風

岩木 敬治

芍薬に羽根割って飛ぶ天道虫

服部 静子

ひた待ちし春の別れのこと更に

村山 数恵

梅の実や女の腕の見せどころ

藤本アツ子

風孕み横一文字鯉のぼり

五丁 義昭

新茶淹れ飲んで夫婦の無言劇

藤本 邦治

褒められて喜ぶ齢四月馬鹿

芹川 蓉子

空港のふち彩るや芝桜

水谷 ミネ

せせらぎの閑かな流れ鷺の舞う

芹川のり子

まろき背の花殻を摘む春うらら

中尾ヨシコ

忘れ雪 花見にたき火しよらした

狩野 本六

むずむず 病氣治して稼ぎたい

窪田 明徳

さぐり合い 上手の欲しい両力士

田中 孝幸

ねんかかり とうと仕事につかっさ

田中レイ子

やめられない 農家には定年の無ア

高木 房恵

肥後狂句水笑会 5月例会

見たごたる 他人の空似だつたらか

吉岡 三水

欲の無さ 西郷遺訓地で行かす

続 義昭

無愛想 飲むと笑顔が出てこらす

御手洗三代

五月晴れ きゃアなえとらす遊園地

井手 水光

見たごたる きのお別れた媽だった

山隈 好茶

七城短歌会 5月詠草

二十日余を探しあぐねし序文なる原

稿棚の奥に潜みし

佐々 重弘

叔母の忌の読経を御堂に聞くさ中幼

なら額に手を合わせおり

四十五度垂れて食べ頃と習い来し畑

の空豆見極めて挽ぐ 高木 精

庭に咲く花の名知らむと捲りいる図

鑑に当てたりクロコスミアの花

朝の道歩行器に腰掛け見惚れるる夜

毎に熟るる色増す麦畑

池田カツ子

高齡者大学文芸部 5月歌会

咲けばとて散るとてものを想はする

問ふて声なき背戸の桜は

春のものが家のキャベツさくさく

と刻む掌に染む土のスタミナ

昨日読みし森鴉外の「舞姫」の中な

る一言胸に広がる

捨てむかと迷ひし花のデンファール

小さきコップに生き生きと咲く

落ち葉掃くわれの頭上に紫のレモン

の蕾ふくらみにけり

安東 綾子

菊池短歌会 6月詠草

いぬふぐりすみれたんぼねこじや

らし呼びて歩めり光降る野を

岩永 典子

文芸 きくち

田植糸には早過ぎないか雨がえる五月の雨に声上ぐるとは

古賀 勝士

思ひ出は捨てつ拾ひつたにむくげ昭

和は重く遠く去りゆく

越えてゆく峠は五月の日差し炎え青

き穂麦がそくそくと伸び

初夏の井手の流れの落差いま轟きに

つつ華と砕くる

中原ちえ子

初夏の井手の流れの落差いま轟きに

つつ華と砕くる

村上さき江